



エンドユーザポータルの設定

- [エンドユーザポータル, 1 ページ](#)
- [エンドユーザポータルを設定するタスクの概要, 2 ページ](#)
- [エンドユーザポータルのユーザアカウントの設定, 2 ページ](#)
- [エンドユーザポータルの権限の設定, 6 ページ](#)
- [エンドユーザポータルのユーザインターフェイスの設定, 19 ページ](#)

エンドユーザポータル

エンドユーザポータルはセルフサービスポータルであり、ユーザに提供するサービスのカタログが含まれています。エンドユーザが使用可能なサービスの1つを要求すると、エンドユーザポータルは、ユーザに対して設定されたサービスリクエストのワークフローを実行します。このワークフローには、セルフサービスプロビジョニングリクエストの承認、必要なコンピューティング、ストレージ、ネットワークリソースの割り当て、さらには、セキュリティとパフォーマンスの設定が含まれます。サービスがプロビジョニングされると、エンドユーザは、ランディングページのサマリーダッシュレットやサマリーレポート、さらにはエンドユーザポータルから利用できるレポートを使用してサービスのステータスを追跡できます。

次に、エンドユーザがエンドユーザポータルで実行できるタスクを示します。

- 仮想マシン (VM) 、アプリケーション固有のインフラストラクチャ、およびベアメタルサーバのプロビジョニング
- サービスリクエストの確認と管理
- OVF やその他の画像のアップロードと展開
- プロビジョニングされた仮想リソースと物理リソースのモニタとレポートの作成
- インフラストラクチャをプロビジョニングするためのサービスリクエストの承認

エンドユーザポータルを設定するタスクの概要

管理者がエンドユーザポータルを設定するために実行する必要があるタスクを次に示します。

- ユーザグループの追加
- ユーザアカウントの追加
- 特定のタスクのエンドユーザ権限の設定
- ポータルのユーザインターフェイスの設定

エンドユーザポータルのユーザアカウントの設定

ユーザグループの作成

手順

- ステップ 1 [管理 (Administration)] > [ユーザとグループ (Users and Groups)] を選択します。
- ステップ 2 [ユーザとグループ (Users and Groups)] ページで [ユーザとグループ (Users and Groups)] をクリックします。
- ステップ 3 [追加 (Add)] をクリックします。
- ステップ 4 [グループの追加 (Add Group)] 画面で、次のフィールドに入力します。

フィールド名	説明
[名前 (Name)] フィールド	グループまたは顧客組織の名前。 次のような特殊文字を使用できます。 () . & - _ ` ~ \$ % ^ { } ! ' @
[説明 (Description)] フィールド	グループまたは顧客組織の説明 (必要な場合) 。
[コード (Code)] フィールド	グループの短い名前またはコード名。この名前は、VM とホスト名テンプレートで使用されます。
[コストセンター (Cost Center)] フィールド	(任意) コストセンターの名前または番号 (必要な場合) 。この名前または番号は、グループが関連付けられているコストセンターを表します。この名前は、VMware システム ポリシー VM の命名規則で使用できます。 命名規則にコストセンターを使用する方法の詳細については、 ポリシーの管理 を参照してください。

フィールド名	説明
[連絡先の電子メール (Contact Email)] フィールド	この電子メールは、必要に応じてサービスリクエストおよびリクエスト承認のステータスをグループ所有者に通知する目的で使用されます。
[名 (First Name)] フィールド	連絡先の名。
[姓 (Last Name)] フィールド	連絡先の姓。
[電話 (Phone)] フィールド	連絡先の電話番号。
[住所 (Address)] フィールド	連絡先の住所。
[グループ共有ポリシー (Group Share Policy)] ドロップダウンリスト	このグループのユーザのグループ共有ポリシーを選択します。 このドロップダウンリストにデータが取り込まれるのは、グループ共有ポリシーを作成した場合だけです。 このポリシーの作成の詳細については、 グループ共有ポリシーの作成 を参照してください。
[ユーザへのリソース割り当てを許可 (Allow Resource Assignment To Users)] チェックボックス	オンにすると、このグループのユーザは、そのユーザに割り当てられたリソースを持つことができ、これらのリソースを所有できます。また、これらのユーザは、グループに属するリソースを確認できます。ただし、ユーザ間でリソースを共有することはできません。

ステップ 5 [追加 (Add)] をクリックします。

次の作業

さらにグループを追加する場合は、この手順を繰り返します。追加するグループごとに、リソース制限を編集し、タグを管理し、ロゴおよびアプリケーションラベルをカスタマイズすることができます。

ユーザの追加

はじめる前に

グループにユーザを追加する前に、そのグループが作成されていることを確認してください。

手順

- ステップ 1 [管理 (Administration)] > [ユーザとグループ (Users and Groups)] を選択します。
- ステップ 2 [ユーザとグループ (Users and Groups)] ページで [ユーザ (Users)] をクリックします。
- ステップ 3 [追加 (Add)] をクリックします。
- ステップ 4 [ユーザの追加 (Add User)] 画面で、次の必須フィールドに値を入力します。

フィールド名	説明
[ユーザロール (User Role)] ドロップダウンリスト	ユーザのロールタイプを選択します。 (注) このドロップダウンリストには、Cisco UCS Director で使用可能なすべてのユーザロールが表示されます。デフォルトで使用可能なユーザロールに加えて、追加のユーザロールを作成できます。ユーザロールの作成の詳細については、 ユーザロールの追加 を参照してください。
[ユーザグループ (User Group)] ドロップダウンリスト	ユーザがアクセスできるグループを選択します。すでに使用可能なグループを選択するか、または新しいグループを追加できます。 (注) このフィールドは、ユーザロールとしてサービスエンドユーザまたはグループ管理者を選択している場合にのみ表示されます。
[MSP 組織 (MSP Organization)] ドロップダウンリスト	ユーザが管理する MSP 組織を選択します。現在使用可能な組織を選択するか、または新しい組織を追加できます。 (注) このフィールドは、ユーザロールとして [MSP 管理者 (MSP Admin)] を選択している場合にのみ表示されます。
[ログイン名 (Login Name)] フィールド	ログイン名。 次のような特殊文字を使用できます。 () . & - _ ~ \$ % ^ { } ! ' @

フィールド名	説明
[パスワード (Password)]フィールド	パスワード。 (注) ユーザに対して Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) 認証を設定している場合は、ローカルサーバではなく LDAP サーバでのみパスワードが検証されます。
[パスワードの確認 (Confirm Password)]フィールド	確認のためにパスワードを再入力します。
[ユーザの連絡先電子メール (User Contact Email)]フィールド	電子メール アドレス。 (注) 電子メールアドレスは、サービスリクエストのステータスと承認についてグループ所有者に通知するために必要です。
[名 (First Name)]フィールド	名。
[姓 (Last Name)]フィールド	姓。
[電話 (Phone)]フィールド	ユーザの電話番号です。
[住所 (Address)]フィールド	ユーザのオフィス住所です。
[ユーザ無効化の日付を設定 (Set user disable date)]チェック ボックス	システムでユーザアカウントを無効にする日時を設定する場合にオンにします。ユーザアカウントが無効になると、ユーザはシステムにログインできなくなります。 この日付から 1 週間前に、アカウントが無効になることを知らせる電子メール メッセージがユーザに送信されます。この自動メールメッセージは、PeriodicNotificationToUserTask システムタスクによって生成され、送信されます。 指定された日時に、ユーザアカウントが自動的に無効になります。ユーザが指定した日付にシステムにログインすると、ログインセッションは自動的に終了します。

フィールド名	説明
[ロケール (Locale)] ドロップダウン リスト	このユーザのシステムの言語を個別に選択します。デフォルトでは、原語は英語に設定されています。 このユーザがログインすると、ユーザインターフェイスは、選択した言語で表示されます。このロケールの選択は、このユーザにのみ適用されます。
[クラシック ビューでログイン (Login with Classic View)] チェック ボックス	このユーザがシステムにログインしたときに、クラシック ビュー ユーザ インターフェイスを起動する場合にオンにします。 他のユーザ用にクラシック ビューを起動するようにシステムを設定する機能は、リリース 6.5でのみ使用できます。クラシックビューは、続くリリースでは削除されます。

ステップ 5 [追加 (Add)] をクリックします。

次の作業

ユーザが含まれている行をクリックし、[プロファイルの管理 (Manage Profiles)] をクリックして、オプションでそのユーザに複数のロールを割り当てます。

エンドユーザポータルの権限の設定

エンドユーザポータルのユーザアカウントを作成したら、特定のタスクを実行するための権限をこれらのアカウントに指定する必要があります。以降のセクションでは、エンドユーザがカタログの管理や VM の管理などのタスクを実行するのに必要な権限について説明します。

承認に必要な権限

次の表に、利用可能な承認アクションおよび必要な権限のリストを示します。

タスク	エンドユーザの権限
サービス リクエストの詳細の表示	デフォルト
サービス リクエストの承認	デフォルト
サービス リクエストの拒否	デフォルト

タスク	エンドユーザの権限
サービス リクエストのキャンセル	デフォルト
サービス リクエストの再送信	デフォルト
サービス リクエストのアーカイブ	デフォルト
サービス リクエストへのメモの追加	デフォルト
サービス リクエストのロールバック	デフォルト

カタログに必要な権限

次の表に、利用可能なカタログアクションおよび必要な権限のリストを示します。

タスク	エンドユーザの権限
カタログの詳細の表示	デフォルト
標準のカタログ用サービス リクエストの作成	デフォルト
詳細なカタログのサービス リクエストの作成	デフォルト
サービス コンテナ カatalogのサービス リクエストの作成	デフォルト
ベア メタル カatalogのサービス リクエストの作成	デフォルト
導入可能性アセスメントの実行	デフォルト
標準カタログ項目の追加	追加の権限が必要
詳細カタログ項目の追加	追加の権限が必要
サービス コンテナのカタログ項目の追加	追加の権限が必要
ベア メタルのカタログ項目の追加	追加の権限が必要
カタログ項目の複製	追加の権限が必要
カタログの編集	追加の権限が必要
カタログの削除	追加の権限が必要

予算エントリに必要な権限

予算エントリに対してアクションを実行できます。アクションによっては、追加の権限が必要です。次の表に、利用可能な予算エントリ管理のアクションと必要な権限のリストを示します。

タスク	エンドユーザの権限
予算エントリの追加	追加の権限が必要
予算エントリの表示	追加の権限が必要

物理リソース

CloudSense レポートに必要な権限

次の表に、利用可能な CloudSense 管理アクションおよび必要な権限のリストを示します。

タスク	エンドユーザの権限
CloudSense レポートの生成	デフォルト
CloudSense レポートを開く	追加の権限が必要
CloudSense レポートの電子メール送信	追加の権限が必要
CloudSense レポートの削除	追加の権限が必要

ラック サーバに必要な権限

次の表に、利用可能なラックサーバ管理アクションおよび必要な権限のリストを示します。

タスク	エンドユーザの権限
ラックサーバの電源のオン/オフの切り替え	追加の権限が必要
ラックサーバのシャットダウン	追加の権限が必要
ラックサーバのハードリセットの実行	追加の権限が必要
ラックサーバの電源再投入	追加の権限が必要

タスク	エンドユーザの権限
ラック サーバの KVM コンソールの起動	追加の権限が必要

サーバに必要な権限

次の表に、利用可能なサーバ管理アクションおよび必要な権限のリストを示します。

タスク	エンドユーザの権限
サーバの電源のオン/オフの切り替え	追加の権限が必要
サーバとサービス プロファイルの関連付け	追加の権限が必要
サーバの関連付け解除	追加の権限が必要
サーバの KVM コンソールの起動	追加の権限が必要

サービス プロファイルに必要な権限

次の表に、利用可能なサービス プロファイル管理アクションおよび必要な権限のリストを示します。

タスク	エンドユーザの権限
サービス プロファイルの詳細の表示	デフォルト
サービスプロファイルとサーバの関連付け解除	追加の権限が必要
インベントリ コレクションのリクエスト	追加の権限が必要

SnapMirrors に必要な権限

次の表に、利用可能な SnapMirror アクションおよび必要な権限のリストを示します。

タスク	エンドユーザの権限
SnapMirror の詳細の表示	デフォルト

ストレージ仮想マシンに必要な権限

次の表に、利用可能な SVM 管理アクションおよび必要な権限のリストを示します。

タスク	エンドユーザの権限
SVMの詳細の表示	デフォルト

vFilerに必要な権限

次の表に、利用可能な NetApp vFiler のアクションおよび必要な権限のリストを示します。

タスク	エンドユーザの権限
vFilerの詳細の表示	デフォルト
vFilerのセットアップ	追加の権限が必要
vFilerでのCIFSのセットアップ	追加の権限が必要

SVM イニシエータグループに必要な権限

次の表に、利用可能な SVM イニシエータグループアクションおよび必要な権限のリストを示します。

タスク	エンドユーザの権限
イニシエータグループの作成	追加の権限が必要
SVM イニシエータグループの名前変更	追加の権限が必要
SVM イニシエータグループへのポートセットのバインド	追加の権限が必要
SVM イニシエータグループからのポートセットのバインド解除	追加の権限が必要

SVM LUNに必要な権限

次の表に、利用可能な SVM LUN アクションおよび必要な権限のリストを示します。

タスク	エンドユーザの権限
SVM LUNの詳細の表示	デフォルト
SVM LUNの作成	追加の権限が必要
SVM LUNのサイズ変更	追加の権限が必要

タスク	エンドユーザの権限
SVM LUN の複製	追加の権限が必要
SVM LUN のオフラインまたはオンラインの切り替え	追加の権限が必要
イニシエータグループへの SVMLUN のマッピング	追加の権限が必要
イニシエータグループからの SVMLUN のマッピング解除	追加の権限が必要
SVM LUN 上のスペース予約の切り替え	追加の権限が必要

SVM CIFS 共有に必要な権限

次の表に、利用可能な CIFS 共有アクションおよび必要な権限のリストを示します。

タスク	エンドユーザの権限
SVM での CIFS 共有の作成	追加の権限が必要
SVM に対する CIFS 共有アクセスの設定	追加の権限が必要

SVM エクスポートポリシーに必要な権限

次の表に、利用可能な SVM エクスポートポリシーアクションおよび必要な権限のリストを示します。

タスク	エンドユーザの権限
SVM のエクスポートポリシーの作成	追加の権限が必要

SVM エクスポートルールに必要な権限

次の表に、利用可能な SVM エクスポートルールアクションおよび必要な権限のリストを示します。

タスク	エンドユーザの権限
SVM エクスポートルールの作成	追加の権限が必要

SVM イニシエータに必要な権限

次の表に、利用可能な SVM イニシエータ アクションおよび必要な権限のリストを示します。

タスク	エンドユーザの権限
SVM イニシエータの作成	追加の権限が必要

SVM ポートセットに必要な権限

次の表に、利用可能な SVM ポートセット アクションと必要な権限のリストを示します。

タスク	エンドユーザの権限
SVM ポートセットの作成	追加の権限が必要
SVM ポートセットの破棄	追加の権限が必要
SVM ポートセットへのポートの追加	追加の権限が必要
SVM ポートセットからのポートの削除	追加の権限が必要

SVM SIS ポリシーに必要な権限

次の表に、利用可能な SVM SIS ポリシーのアクションと必要な権限のリストを示します。

タスク	エンドユーザの権限
SVM の SIS ポリシーの作成	追加の権限が必要

SVM スナップショットポリシーに必要な権限

次の表に、利用可能な SVM スナップショットポリシー アクションおよび必要な権限のリストを示します。

タスク	エンドユーザの権限
SVM スナップショットポリシーの詳細の表示	デフォルト
SVM でのスナップショットポリシーの作成	追加の権限が必要
SVM のスナップショットポリシーの有効化および無効化	追加の権限が必要

タスク	エンドユーザの権限
SVM スナップショットポリシーのスナップショットポリシー スケジュールの作成	追加の権限が必要

SVM WWPN エイリアスに必要な権限

次の表に、利用可能な SVM WWPN エイリアス アクションおよび必要な権限のリストを示します。

タスク	エンドユーザの権限
SVM での WWPN エイリアスの作成	追加の権限が必要

SVM ボリューム スナップショットに必要な権限

次の表に、利用可能な SVM ボリューム スナップショット アクションおよび必要な権限のリストを示します。

タスク	エンドユーザの権限
SVM ボリュームのスナップショットの作成	追加の権限が必要
スナップショットからの SVM ボリュームの復元	追加の権限が必要
スナップショットを使用して SVM ボリューム上のファイルを復元する	追加の権限が必要
スナップショットを使用した SVM ボリューム上のファイルの部分的な復元	追加の権限が必要

SVM ボリュームに必要な権限

次の表に、使用可能な SVM ボリューム アクションのリストと、必要な権限を示します。

タスク	エンドユーザの権限
SVM ボリュームの詳細の表示	デフォルト
SVM ボリュームの作成	必要な追加の権限

タスク	エンドユーザの権限
SVM ボリュームをオフラインまたはオンラインにする	必要な追加の権限
SVM ボリュームのサイズ変更	必要な追加の権限
SVM ボリュームの複製	必要な追加の権限
マルチボリューム スナップショットの作成	必要な追加の権限
SVM ボリュームの移動	必要な追加の権限
SVM ボリュームのマウントとマウント解除	必要な追加の権限
SVM ボリュームでの重複排除の有効化と無効化	必要な追加の権限
SVM ボリュームでの重複排除の開始	必要な追加の権限
SVM ボリュームでの重複排除の停止	必要な追加の権限
SVM ボリュームでの Qtree の作成	必要な追加の権限
SVM ボリュームでのインベントリ収集の実行	必要な追加の権限
SVM ボリュームのスナップショット予約の設定	必要な追加の権限
SVM ボリュームのグループへの割り当て	必要な追加の権限
グループからの SVM ボリュームの割り当て解除	必要な追加の権限

vFiler ボリュームに必要な権限

次の表に、使用可能な vFiler ボリューム アクションのリストと、必要な権限を示します。

タスク	エンドユーザの権限
vFiler ボリュームの詳細の表示	デフォルト
vFiler ボリュームの作成	必要な追加の権限
vFiler ボリュームのサイズ変更	必要な追加の権限

タスク	エンドユーザの権限
vFiler ボリュームのオフラインまたはオンラインの切り替え	必要な追加の権限
vFiler ボリュームでの重複排除の有効化と無効化	必要な追加の権限
NFS を使用した vFiler ボリュームのエクスポート	必要な追加の権限
vFiler ボリューム スナップショットの作成	必要な追加の権限
vFiler ボリュームのスナップショット予約のサイズ変更	必要な追加の権限
vFiler ボリュームでの CIFS 共有の作成	必要な追加の権限
vFiler ボリュームに対する CIFS 共有アクセスの設定	必要な追加の権限
vFiler ボリュームでの Qtree の作成	必要な追加の権限

サービス

支払い情報に必要な権限

次の表に、利用可能な支払いアクションおよび必要な権限のリストを示します。

タスク	エンドユーザの権限
支払い情報の詳細の表示	追加の権限が必要
支払いの実施	追加の権限が必要
支払い詳細の更新	追加の権限が必要
資金の確認	追加の権限が必要

サービス リクエストに必要な権限

次の表に、利用可能なサービス リクエスト アクションおよび必要な権限のリストを示します。

タスク	エンドユーザの権限
サービス リクエストの詳細の表示	デフォルト
標準のカタログ用サービス リクエストの作成	デフォルト
詳細なカタログのサービス リクエストの作成	デフォルト
サービス コンテナのサービス リクエストの作成	デフォルト
ベア メタル カatalogのサービス リクエストの作成	デフォルト
サービス リクエストのキャンセル	デフォルト
サービス リクエストの再送信	デフォルト
サービス リクエストのアーカイブ	デフォルト
サービス リクエストへのメモの追加	デフォルト
サービス リクエストのロールバック	デフォルト

ユーザ OVF 管理に必要な権限

次の表に、利用可能な OVF 管理アクションおよび必要な権限のリストを示します。

タスク	エンドユーザの権限
OVA ファイルのアップロード	デフォルト
OVA ファイルの破棄	デフォルト

仮想リソース

アプリケーション コンテナに必要な権限

次の表に、利用可能なアプリケーションコンテナアクションおよび必要な権限のリストを示します。

タスク	エンドユーザの権限
アプリケーション コンテナの詳細の表示	デフォルト
アプリケーション コンテナ レポートの表示	デフォルト
アプリケーション コンテナの電源管理	デフォルト
アプリケーション コンテナの廃止	デフォルト
アプリケーション コンテナの複製	デフォルト
アプリケーション コンテナへの VM の追加	デフォルト
導入済み APIC アプリケーション コンテナへの ベア メタル サーバの追加	デフォルト
アプリケーション コンテナの削除	デフォルト
VM コンソールへのアクセス	デフォルト
リソース制限の編集	デフォルト
コスト モデルの編集	デフォルト
アプリケーション コンテナ コントラクトの追加	デフォルト

VMに必要な権限

次の表に、利用可能なVMライフサイクル管理アクションおよび必要な権限のリストを示します。

タスク	エンドユーザの権限
VMの詳細の表示	デフォルト
VMのインベントリ収集のリクエスト	デフォルト
VMクライアントの起動	追加の権限が必要
VNCコンソールの起動	追加の権限が必要
VMRC HTML5 コンソールの起動	追加の権限が必要
VMのリース時間の設定	追加の権限が必要

タスク	エンドユーザの権限
VMの電源管理	追加の権限が必要
スナップショットの作成	追加の権限が必要
スナップショットの復帰	追加の権限が必要
スナップショットをゴールデンとしてマーキング	追加の権限が必要
VMの複製	追加の権限が必要
VMのサイズ変更	追加の権限が必要
VMの再同期	追加の権限が必要
VMディスクの作成	追加の権限が必要
VMへのvNICの追加	追加の権限が必要
VMのVDCへの割り当て	追加の権限が必要
VMのVDCへの移動	追加の権限が必要
VMをイメージとして複製	追加の権限が必要
VMをイメージとして変換	追加の権限が必要
VMのVMRCコンソールの有効化および無効化	追加の権限が必要
ISOイメージをCD/DVDドライブとしてマウント	追加の権限が必要
CD/DVDドライブとしてマウントしたISOイメージのマウント解除	追加の権限が必要

イメージに必要な権限

次のテーブルに、利用可能なイメージアクションおよび必要な権限のリストを示します。

タスク	エンドユーザの権限
イメージからVMへの変換	追加の権限が必要
テンプレートからのVMの展開	追加の権限が必要

エンドユーザポータルのユーザインターフェイスの設定

エンドユーザの権限を有効にすることに加え、エンドユーザポータルで特定の要素を有効にすることもできます。これには次が含まれます。

- ダッシュレットの設定
- ダッシュレット レポートの色の変更
- カタログの選択

ダッシュレットの設定

ダッシュレットは、エンドユーザポータルのダッシュボードに表示できるレポートです。

使用可能なダッシュレットは、次のとおりです。

- VM
- UCS サーバ
- 注文
- カタログ
- 承認

管理者は、エンドユーザポータルのダッシュレットの一部またはすべてを表示させるかを選択できます。各ユーザグループのダッシュレットを設定できます。



(注) すべての使用可能なダッシュレットはユーザグループにユーザが含まれる場合にのみユーザグループを追加できます。ユーザグループに1人のユーザもない場合、ダッシュレットにユーザグループは表示されません。

ユーザグループのダッシュレットを設定するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** [管理 (Administration)] > [ユーザとグループ (Users and Groups)] を選択します。
- ステップ 2** [ユーザとグループ (Users and Groups)] ページで [ユーザとグループ (Users and Groups)] をクリックします。
- ステップ 3** ダッシュレットを設定するユーザグループを含む行をクリックします。
- ステップ 4** [その他のアクション (More Actions)] ドロップダウンリストから [ダッシュレットのセットアップ (Dashlet Setup)] を選択します。
[ダッシュレットのレポート (Dashlets Report)] 画面には、すべての使用可能なダッシュレットが表示されます。
(注) ユーザグループ内にユーザがない場合、[ダッシュレットのレポート (Dashlets Report)] 画面ではダッシュレットは表示されません。ダッシュレットを設定するには、ユーザグループにユーザを追加します。
- ステップ 5** [ダッシュレットのレポート (Dashlets Report)] 画面で、ユーザグループに必要なないダッシュレットを選択し、[X] (削除) アイコンをクリックします。
- ステップ 6** ユーザグループにダッシュレットを追加するには、[+] (追加) アイコンをクリックします。[エントリの追加 (Add Entry)] 画面で、次のフィールドに値を入力します。
- ダッシュレット名リストから、ダッシュレットのタイプを選択します。
 - [ダッシュレットデータレポート (Dashlet Data Report)] セクションで、[+] (追加) アイコンをクリックします。
 - ダッシュレットデータレポートへのエントリの追加で、エントリ (ステータス、タイプ、選択したダッシュレットタイプの状態) を選択し、エントリの色を指定し、[送信 (Submit)] をクリックします。
 - エントリの REST に色を指定します。
 - ダッシュレットにエントリに色を指定した後、[送信 (Submit)] をクリックします。
- ステップ 7** [ダッシュレットのレポート (Dashlets Report)] 画面で、[エンドユーザへの公開 (Publish to end users)] ボックスがオンになっていることを確認します。
このオプションを使用すると、このグループのユーザ用にダッシュレットをエンドユーザポータルに表示できます。
- ステップ 8** [送信 (Submit)] をクリックします。
-

ダッシュレットのレポートの色の変更

管理者は、エンドユーザポータルに表示されるダッシュレットレポート内の各エントリの色の変更を選択できます。エントリはダッシュレットによりステータス (進行中または完了) 、カテゴリタイプ (標準または拡張) 、または電源の状態 (オンまたはオフ) の可能性があります。たとえば、VM ダッシュレット用に、ON 状態に赤を OFF 状態にグレーを割り当てることができます。

ダッシュレット レポートのエントリの色を変更するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** [管理 (Administration)] > [ユーザとグループ (Users and Groups)] を選択します。
 - ステップ 2** [ユーザとグループ (Users and Groups)] ページで [ユーザとグループ (Users and Groups)] をクリックします。
 - ステップ 3** ダッシュレットを設定するユーザ グループを含む行をクリックします。
 - ステップ 4** [その他のアクション (More Actions)] ドロップダウンリストから [ダッシュレットのセットアップ (Dashlet Setup)] を選択します。
[ダッシュレットのレポート (Dashlets Report)] 画面には、すべての使用可能なダッシュレットが表示されます。
 - ステップ 5** [ダッシュレットのレポート (Dashlets Report)] 画面で、ダッシュレットを選択し、[編集 (Edit)] をクリックします。
[エントリの追加 (Add Entry)] 画面が表示されます。
 - ステップ 6** [エントリの追加 (Add Entry)] 画面で、次のフィールドに値を入力します。
 - a) ダッシュレット データ レポート 領域へのエントリの追加で、エントリを選択し、エントリに色を指定し、[送信 (Submit)] をクリックします。
 - b) エントリの REST に色を割り当てます。
 - c) ダッシュレットにエントリに色を指定した後、[送信 (Submit)] をクリックします。
 - ステップ 7** [エンドユーザへの入力 (Publish to end users)] チェック ボックスがオンになっていることを確認します。
このダッシュレットの変更のオプションを有効化すると、このグループのユーザ用にエンドユーザポータル上に表示されます。
 - ステップ 8** [送信 (Submit)] をクリックします。
-

エンドユーザポータルのカタログの選択

管理者は、フォルダ内のフォルダおよびカタログをエンドユーザポータルのダッシュボードに表示できます。最大 25 のカタログフォルダと最大 25 のフォルダ内のカタログをエンドユーザポータルのダッシュボードに表示できます。

カタログをエンドユーザポータルのダッシュボードに表示するよう設定するには、次の手順を実行してください:

手順

- ステップ 1** [管理 (Administration)] > [ユーザとグループ (Users and Groups)] を選択します。
- ステップ 2** [ユーザとグループ (Users and Groups)] ページで [ユーザとグループ (Users and Groups)] をクリックします。
- ステップ 3** MSP モードを有効にしている場合は、[お客様の組織 (Customer Organizations)] タブを選択します。
- ステップ 4** Catalog を設定するユーザグループを含む行をクリックします。
- ステップ 5** [その他のアクション (More Actions)] ドロップダウンリストから [Catalog のセットアップ (Catalog Setup)] を選択します。
[Catalog の設定 (Configure Catalog)] 画面でユーザグループに使用できるCatalogのリストが表示されます。
(注) Catalogのユーザグループに割り当てられていない場合、[Catalog の設定 (Configure Catalog)] 画面は空です。
- ステップ 6** [Catalog の設定 (Configure Catalog)] 画面で、エンドユーザポータルのダッシュボードに表示する必要があるCatalogをオンにします。
- ステップ 7** [送信 (Submit)] をクリックします。
エンドユーザポータルへのログイングループに属しているユーザは、ダッシュボードに選択されたCatalogとCatalogフォルダが入力されます。
-